

◎ (2) 東京と大阪で異なる題字の模様

2011/10/14

皆さんが各地で手にする「朝日新聞」の題字のバックの模様は、何でしょうか。大阪と東京とでは、まったく異なる図柄です。

東京本社版の題字のバックには、「サクラ」が描かれています。「朝日ににおう山桜」の古歌の意味をあらわしており、北海道支社版も同じ図柄を使っています。それが名古屋・大阪・西部本社をみると3社ともまったく同じで別のものが描かれています（西部本社は九州と山口県を管轄しています）。

それはいね科の多年草の「アシ（ヨシ）」で、アシとヨシは同じものですが、大阪本社版の創刊号に「難波津によしとあしとをかき分けて…」とあることから、図案にアシをとったといわれています。

同じであるはずのものの中に違いを見つけることは、新聞読みの楽しみの1つです。

題字の「朝日新聞」という四文字をよく見ると、普段使う漢字と異なるものがあることが分かります。その一つは「新」という字で、「立」の下が木ではなくヨコ棒が1本余分に入っているのです。「大唐宗聖観記」に「新」がなかったので、別々の文字の偏とつくりを組み合わせで作ったので、現在の常用漢字より1本多くなっています。「朝」も「日」も教科書の漢字とは少し異なっています。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)